

(不誠実対応-32)

児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は、事故についての説明を終えた後、今後の保護者会の方針について話し出した。特に宇津雅美は、「まあ～、今回はまあ～、事故についての保護者会をやったわけですけど…、今後、もうちょっと何か月に、半年に一回とか…」と発言。遺族としては、この死亡事故を年間行事のひとつのような扱いをしているように感じた。すなわち、遺族としては、悠生君の命を冒瀆している様にしか聞こえない。

悠生君の遺族としては、子供の未来を奪われた状況下において、このような未来の方針を聞くのはしんどいと説明し退室。アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、この発言、その行動が未来を奪われた遺族を傷つけるものになるとは微塵にも思っていないと思われた。如何に、アルプスの森(施設長:宇津慎史)が倫理的問題を抱えているかを説明する内容であったと思われる。

(音声ファイル-32) [0:00:00]⇒[0:01:36]

(会話内容)

[0:00:00]

(児童発達支援管理責任者:宇津雅美)の発言内容の概要

保護者会の件について言及。毎年1回保護者を対象にアンケートしている。保護者会をもっとやって欲しいとのコメントがあがっていた。今回は事故について行った。今後、何か月

[0:00:18]

まあ～今回はまあ～事故についての保護者会をやったわけですけど…、今後、もうちょっと何か月に、半年に一回とか…、4月に一回、年に3回…、

～省略～

(半年)に1回とか、4か月に1回とか時間を合わせて行っていくつもり。時間が合わない人は個人的に面談したりして、情報共有してやっていこうと思っている。

まず今回は第一回。今後の将来のことも色々…。

[0:01:19]

(悠生君の母親:清水亜佳里)の発言

あのこれ～、その～、これ同じにしない(事故の説明と今後の保護者会の方針の話)と駄目なのですかね。もう亡くなっているのに…、このような(将来の)話をされてもしんどいです。

この後、悠生君の両親(清水悠路・亜佳里)は退室。

***本会話における問題点**

児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は、悠生君の未来を奪った。それにも関わらず、悠生君の遺族の前で未来の保護者会の方針についての説明を始めた。特に宇津雅美の発言、「まあ～今回はまあ～事故についての保護者会をやったわけですけど…、今後、もうちょっと何か月に、半年に一回とか…」の発言は事故を軽く捉えており、年間行事のひとつのような扱いをしていることが解る。遺族としては、悠生君の命を冒瀆している様に聞こえる。

しかし堂々とこのような遺族を傷つける行動をしている事を勘案するとアルプスの森(施設長：宇津慎史)側の根本に命を蔑ろにすると行った極普通の倫理観が完全に欠如してことがここでも露呈されたと遺族は考えている。